

果肉の鮮やかな赤が特徴の県育成品種のウメ「紅の舞」の収穫作業が高崎市の榛名地域で始まった。4日から地元のJAはぐくみは

るな営農生活センターで直売され、加工方法やレシピを紹介しながら地域の新しい特産物としてアピールする。

# 新品種の「紅の舞」収穫始まる

## 赤い果肉が特徴

あすからJAで直売

高崎・榛名



「紅の舞」の色鮮やかな果肉

特色あるウメの新品種を作るつと、県農業技術センターがウメとスモモを交配させて開発、2007年に品種登録した。果実は県の主力品種「白加賀」よりも大きい。抗酸化作用が期待できるアントシアニンを他のウメのよりも多く含む。

JAはぐくみはるな梅部会研究部に所属する6軒の農家で06年に栽培を始め、昨年初めて収穫した。今年は2倍の500キを収穫する予定で、400キは県内の酒造会社や都内の市場に出荷し、100キを直売する。梅干しの材料には不向きだが、梅酒や梅シ

ユース、ジャムなどに加工すると色鮮やかな果肉とさわやかな酸味が楽しめる。収穫時期が近い南高梅などと合わせて加工すると、より風味が増す。

生産者の一人、外処賢司さんは「おいしく食べてもらえようが、対面販売でしっかりと紹介したい」と話している。

直売は4日から9日まで。午後1時半から数量限定で行われる。問い合わせはJAはぐくみはるな営農生活センター(☎027・374・0256)へ。

110/7/3

上毛新聞